

令和元年度

黒部市教育センター事業の点検評価

報告書



令和2年3月
黒部市教育センター

目 次

目 次	1
I 令和元年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針	2
II 点検評価の結果	
1 児童生徒の学力向上、教員の指導力向上	
(1) 市教委・市教セによる学校訪問（通常訪問・支援型訪問を含む）	3
(2) 学級経営研修会（市内初任教員）	4
(3) 学力向上研修会	5
(4) 特別支援教育研修会	6
(5) 教科実技研修会（小学校理科担当教員悉皆）	7
(6) 情報教育実技研修会（情報教育研究委員会）	8
(7) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用	9
(8) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析、 体力・運動能力向上研修会	10
2 黒部国際化教育の充実	
(1) 黒部国際化教育組織部会	11
(2) 企画・運営・評価部会	12
(3) 英会話科カリキュラム部会	13
(4) 英会話科担当者定例会	14
(5) 英会話科の推進に関わる研修会	15
(6) 英会話科の授業の充実及び環境整備	16
(7) 帰国児童生徒教育研究会	17
(8) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育	18
3 生徒指導・教育相談の充実	
(1) いじめ問題等研修会	19
(2) 生徒指導主事等研修会	20
(3) 教育相談の充実と体制づくり	21
(4) 不登校児童生徒に関わる取組、適応指導教室の充実	22
(5) スクールソーシャルワーカー（SSW）事業の活用推進	23
(6) 幼・保・こ・小・中学校の連携事業	24
4 学校教育を支援する調査・研究の推進	
(1) 社会科研究委員会	25
(2) 理科研究委員会	26
(3) 吉田科学館学習（プラネタリウム学習）	27
5 迅速な教育サービスの提供	
(1) 情報提供	28
(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷	29

I 令和元年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針

1 趣旨

教育センター運営の改善・改革を目指し、事業の執行状況について点検及び評価(以下「点検評価」と言う)を実施する。

2 点検評価の対象

令和元年度の黒部市教育センター事業

3 点検評価の方法

(1) 「令和元年度黒部市教育センターの要覧」に掲げる分野に基づき、個別事業ごとに点検評価シートを作成し、次の5段階による総合評価を行う。

評価	評価の基準等	達成度の目安
AA	目標を十分達成し、期待以上の成果が得られた。	100%以上
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	80~100%
B	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	60~80%
C	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	30~60%
D	目標をほとんど達成できず、成果が少なかった。	0~30%

(2) 黒部市教育センター運営委員会での検討

自己点検評価したものについて、黒部市教育センター運営委員10名において、客観的な視点で検討する。

【黒部市教育センター運営委員名簿】

	氏名	役職
運営委員長	茶谷 渉	小学校長会会長(桜井小学校)
運営副委員長	中村 靖	中学校長会会長(桜井中学校)
運営委員	高野 晋	学校教育課長(黒部市教育委員会)
運営委員	齊藤 誠	学校教育班長(黒部市教育委員会)
運営委員	藤田 信幸	こども支援課長(黒部市市民生活部)
運営委員	清水 俊充	小学校教育研究会会長(若栗小学校)
運営委員	朝倉 美音子	中学校教育研究会会長(鷹施中学校)
運営委員	戸島 宏之	帰国児童生徒教育研究会会長(中央小学校)
運営委員	愛場 幸男	生徒指導連絡協議会会長(宇奈月中学校)
運営委員	入井 孝幸	小中学校教頭会会長(中央小学校)

(3) 報告及び公表

点検評価に関する報告書を作成し、これを各運営委員及び各学校に配付するとともに、ホームページの掲載等により公表する。

Ⅱ 点検評価の結果

1 児童生徒の学力向上、教職員の指導力向上

事業・研修会名	1－(1) 市教委・市教セによる学校訪問 (通常訪問・支援型訪問を含む)
内容・方策	<p>富山県教育委員会や黒部市教育委員会の指導方針に即し、学校運営や教育指導、研修に関して指導助言し、学校課題の解明や教育実践の効果を高めることを目的として学校訪問を行う。</p> <p>○通常訪問や支援型訪問では、各教科等の授業を参観し、部会協議会において、東部教育事務所の指導主事とともに指導助言にあたる。</p> <p>○1～2学期に市教委・市教セによる学校訪問を実施し、若年教員の授業を中心に各教科等の授業を参観し、授業後に懇談に行い、学級経営や「確かな学力の育成」、「生徒指導の機能を生かした授業」等について指導助言する。また、悩み事を聞く場としても活用する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・通常訪問や支援型訪問では、東部教育事務所指導主事とともに部会協議会において指導助言を行うことができた。また、授業や各種部会等を含めた研修全体について気付いたことをまとめ、各学校に報告した。 ・市教委・市教セによる学校訪問では、授業の改善点だけでなく、具体的な指導場面における良い点を認め、助言を行った。 また、学級経営や教科指導、保護者対応等に関する課題を共有し、助言にあたることができた。若年教員にとって意義のある研修になったと考えている。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・市教委・市教セによる学校訪問は、1学期に通常訪問や支援型訪問が実施された学校は2学期に、2学期に通常訪問等が実施された学校は1学期に行った。各学校と日程を調整し、無理なく実施できたと考えている。 また、参観する授業者においては、若年教員だけでなく、臨任やベテランの方を含めて各校の実情に応じて実施できた。 今後も校長との懇談を通じて共通理解しながら、幅広く対応していく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	1 - (2) 学級経営研修会（市内初任教員）
内容・方策	<p>黒部市内着任の初任教員が集まり、学級経営上の諸問題や日々の悩みを話し合うことで、横の連携を強めるとともに、互いに相談できる体制、SOSが発信できる体制を構築できるよう支援する。</p> <p>＜学級経営研修会（初任者対象）【5/9、参加者11名】＞</p> <p>黒部市内着任の初任教員同士が、悩み等を話し合っって連携を強めるとともに、社会人としての常識を身に付ける。</p> <p>(1) 指導講話 齊藤 誠 学校教育班長</p> <p>(2) 1か月を振り返って</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業、学級経営、生徒指導、その他、校務に関わること等 ・教壇に立ってうれしかったこと、悲しかったこと、辛いこと、悩んでいること等 ・職場での人間関係等
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・指導講話を聞くことで、教師になった喜びや子供と向き合える充実感等、教師としてのやり甲斐について振り返るとともに、社会人としての基本的な心構えや立ち振る舞いを知る機会となった。 ・参加者のまっすぐ伸びた背筋や真剣な眼差しから、教師の仕事への意欲が感じられた。 ・教壇に立って約1か月を経て、教師としての楽しさや難しさ等を感じ始めた時期の開催ということもあり、グループでの話合いの際には、互いの実践について積極的に意見交換を行うことができた。 ・先輩教員との接し方や帰宅時刻等、様々な話題で盛り上がり、同期としての意識が高まった。 ・参加者からは、「頑張っていく力をもらえた」「仲間にいろいろなことを相談していこうと思った」「無理をしすぎないように頑張ろうと思った」等の感想が寄せられ、研修会は有意義であったと考える。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・市内着任の初任教員が11名おり、3つのグループに分かれての話合いとなり、活気があった。その年度の初任教員の人数に応じた研修会のスタイルを考えていく必要がある。人数が少ない場合は、2年次や3年次の教員がアドバイザーとして参加し、活気をもたせたい。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	1－(3) 学力向上研修会
内容・方策	<p>新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業のあり方について、具体的な授業実践をもとに知見を深めるとともに、学習の基盤となる学級経営や学校運営のあり方について研修を行う。</p> <p>○学力向上研修会（講演）【8/5、参加者69名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師による師範授業と学力向上に関する講演会 <p>【講師】 菊池 省三 先生</p> <p>【演題】「これからの学びに必要な学級づくり」</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">AA</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・規律ある授業や教師と児童生徒とのコミュニケーションのとり方、学級における安心した話し合い活動のあり方など、日々の授業実践における疑問について、菊池省三先生による師範授業を参観することによって具体的なイメージをもつことができた。 ・菊池省三先生による講演会では、「ほめ言葉のシャワー」の意義だけでなく、コミュニケーションを楽しむことの重要性やポイント、今日的な学力観や授業観について、新たな示唆を受けることができた。 ・参加者からは、「初めて会う子供たちと、やり取りしながら授業を練り上げていく様子を見ることができ、対話的な学びについてのイメージができた」「子供たち同士をどのように関わらせていくかという技法的な部分だけでなく、一人も見捨てないという教師の熱意の大切さが伝わった」などの感想が寄せられ、今後の授業改善に対する意識が高まったと考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会だけでなく、授業を実施するという点においては、夏季休業中ということもあり、学校全体と保護者の理解が必要である。水泳指導等、各種行事との関連もあり、綿密な連携が必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度は中学校における授業と講演が実施できるように、学校、講師と調整し継続する。

事業・研修会名	1 - (4) 特別支援教育研修会
内容・方策	<p>特別な支援を必要とする児童生徒への教育を推進するため、専門機関等と連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導を行えるよう、研修を行う。</p> <p>○特別支援教育研修会【8/23、参加者29名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人面の困難を抱える児童生徒のための適切な支援のあり方について学び、学校不適應の予防、改善に資する。 ・【講師】 にかわ総合支援学校 保里 良隆 先生 堀川 美幸 先生 ・【演題】 特性のある児童生徒の理解と支援について ～集団の中で個が生きるために～
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・講話は、①集団の中での個別支援について、②集団不適應がある児童生徒の支援について、③不登校の対応と支援についての流れで進められた。 ・①では、「子供のために気づいて動けるチェックリスト」を活用して、気になる児童生徒に必要な支援の方向性の見だし方を学んだ。 ・②では、2つの事例について、4名程度のグループになって、その状況・背景を把握することや、支援のあり方を検討する中、2名の講師から、適宜、助言をいただいた。 ・③では、自己肯定感・保護者対応・校内支援体制についての理解を深めた。 ・参加者の感想には、「具体的な話、事例の検討は視野を深めるのによかった」や「通常級の児童生徒にも効果的な指導を確認することができた」等があり、今後に生かせる研修となった。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教員はどのような内容の研修を求めているのかというニーズを把握して、研修会の内容を考えていく必要がある。そのために、昨年度、今年度と継続しているが、今後も各校の特別支援教育コーディネーターにアンケート調査をすることが大切である。 ・短時間の研修を有効なものにするため、講師との打合せを十分に行う。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	1－(5) 教科実技研修会
内容・方策	<p>理科室の利用や教材提示の仕方をはじめ、安全な化学実験のあり方や次年度から始まるプログラミングに関する学習について体験することにより、指導力の向上を図る。</p> <p>○理科研究委員会（小学校7名、中学校2名）【7/25、8/2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研修内容に関する共通理解及び模擬実験及び演習 <p>○教科実技研修会（小学校理科担当教員）【8/2、参加者25名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 黒部市理科研究委員9名（小学校7名、中学校2名） <p>研修1 理科における指導の基礎・基本 研修2 化学実験における危険と安全 研修3 プログラミング学習</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・桜井中学校に協力いただき、新しく快適な理科室を会場として実施することができた。 ・実際にアンモニアの発生実験を行いながら、実験器具の工夫や換気の必要性について確認することができた。 ・次年度から始まるプログラミング学習について、メーカーの協力を得て、新しい機材とコンピュータを使って実際のプログラミングを体験することができた。また、理科室内にWi-Fi環境を準備し、グループ同士の学び合いを同時に体験することによって、次年度の授業のあり方について検討することができた。 ・ほとんどの参加者から「大変参考になった」との回答があり「実験の細かなポイントがよく分かった」「難しいと思っていたプログラミング学習も実際にやってみると比較的理解しやすかった」などの感想が寄せられた。理科研究委員が研修リーダーとして各グループにつくことで、質問がしやすく参加者の理解が深まった。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・理科室やWi-Fi、実験器具等の整備環境は各学校で異なっており、それぞれの学校の状況を確認しながら進めることが大切である。 ・理科研究委員が実技のリーダーとなって研修を進めることができるようになることによって、研究委員自身の理解を深めながら研修を行うことが大切である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度も理科研究委員の協力を得て、研修会を継続する。

事業・研修会名	1 - (6) 情報教育実技研修会（情報教育研究委員会）
内容・方策	<p>指導型、対話型等の様々な授業スタイルにおけるICT機器やソフト、アプリケーションの活用法を体験することにより、指導力の向上を図る。（情報教育研究委員、希望者）</p> <p>○情報教育実技研修会【7/29、参加者24名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導型のアプリケーション「kocri」と対話型のアプリケーション「ロイロノート」を体験し、今後の活用につなげる。 <p>講 師 富山大学 大学院教職実践開発研究科 准教授 長谷川 春生 先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜井中学校 理科室（教室外でWi-Fi環境が準備できる）
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校に配置されているタブレット型PCや校内の無線LAN環境を今後の授業においてどのように活用していくかということについて実際に具体例を体験することができた。 ・教室に設置されているプロジェクターと黒板をICTによってより効果的に活用することを体験し、2学期から活用したいと考える参加者が増えた。 ・「ロイロノート」を活用して、「桜井中学校の紹介」というプレゼンテーションを一人一人が作成し、グループ内のWi-Fi環境で発表するという実技研修を通して、児童生徒が発表する場面での具体的な活用方法や教師の評価、情報管理のあり方について実際に体験しながら学ぶことができた。 ・参加者からは、「他の市町で小学2年生が一番PCを利用していることを知り、今回研修したものをぜひ取り入れていきたい」「一人一人がPCをもつことで自分の表現したいことに簡単に取り組めることが分かった」などの肯定的な意見が聞かれた。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校において、今後PC環境の整備拡充が進められていく中で、効果的、効率的な活用の方法について研修していくことは必要不可欠である。プログラミング学習等、教師がどのように活用できるかを体験的に学ぶ場が今後も必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度は教科実技研修会と合わせて研修会を実施する。

事業・研修会名	1-(7) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用
内容・方策	<p>全国学力・学習状況調査の結果等を生かし、市内小中学校の児童生徒の学力向上や基本的な生活習慣の定着を図ることができるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の結果分析等を行い、校長研修会で報告し、報告書としてまとめ小中学校に配布する。報告書は小中学校における学力向上のための参考となる内容にする。 ○今年度の中学校における英語調査において、各校のデータをもとに黒部市としてのデータをまとめ、これまでの英語教育に関する効果測定の結果として活用する。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より知識のA問題と活用のB問題が一元的に出題された。したがって、過去の結果と比較するために、昨年度から活用している標準化得点を求め、経年変化を確認した。 ・英語「話すこと」の調査においては、各校のデータをまとめ、黒部市全体としての平均正答率や設問別正答率等をまとめた。 ・「令和元年度 全国学力・学習状況調査報告書」では、教科に関する調査や児童・生徒質問紙調査の結果について、その概要を報告した。結果の分析では、「標準化得点における結果の経年変化」「国語、算数・数学、英語の相関関係」「小6から中3への変容」「設問別正答率の学校間の開き」「児童・生徒質問紙調査結果と各教科の調査結果との相関」「児童生徒質問紙調査の経年比較」「学校質問紙調査結果の全国との比較」「SP分析」等を示し、小中学校が学力向上に向けた取組をする際に参考となるデータを提供した。 ・各教科の問題については黒部市全体のSP分析を行い、問題注意係数、児童生徒注意係数等に留意しながら、平均正答率が低い問題について分析した。 <div data-bbox="963 1285 1406 1688" style="text-align: right;"> </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、調査結果の経年変化について標準化得点を活用することで、黒部市全体の経年変化を確認することができた。 ・黒部市全体として、自校採点の結果をもとにSP分析を早期に行うことができるシステムを考えていくと、より効果的な調査の振り返りに生かすことが可能になると考える。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	1－(8) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析、 体力・運動能力向上研修会
内容・方策	<p>全国や富山県が実施した体力・運動能力調査の結果をもとに、市内の児童生徒の体力・運動能力、運動習慣の状況を把握・分析し、学校での授業改善や体力向上・生活習慣改善の取組を支援する。</p> <p>①「令和元年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」等の結果を分析し、本市の児童生徒の課題を示す。 ②体力・運動能力向上研修会を開催し、教員の指導力向上を図る。 ③各学校の体力・運動能力向上のための方策と振り返り、評価について内容を共有し、次年度に生かす。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の体力調査の結果を全国平均や県平均と比較する資料を作成し、体力・運動能力の向上のための方策を考える材料とした。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の若手教員と中学校の体育主任を対象に、「体力・運動能力向上研修会」を開催した。【7/30、参加者33名】 ・運動指導における専門的な指導者を招聘し、器械運動や球技、短距離走についての基本的な運動技能の指導法について学び、指導力向上を図った。 ・講師 スタジオじゅう 大崎 亮 先生 ・参加者からは「実技指導のポイントだけではなく、励ましの言葉がけについても参考になった」「2学期からの指導に役立てたい」等の感想が寄せられた。  <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校の課程や取組内容を集約するとともに、市全体の研修状況や体力向上のための方策について情報を共有した。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・本市児童生徒の課題をより明らかにし、解決策を考えるための分析方法については、さらなる検討が必要である。 ・今年度は実技研修を実施した。来年度以降も、本市の実態をもとに、児童生徒の体力・運動能力の向上及び教師の指導力向上に効果的な研修会を企画する。座学研修、実技研修、両方の研修等、その年度の教員のニーズも把握しながら検討する。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

2 黒部国際化教育の充実

事業・研修会名	2－(1) 黒部国際化教育組織部会
内容・方策	<p>英会話科の実施をはじめとする黒部国際化教育の各事業について、方針や内容等について審議する。また、企画・運営・評価部会、カリキュラム部会、英会話科定例会で検討されたことについて情報共有を図る。</p> <p>○年2回開催し、以下のことについて協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の英会話科年間指導計画について ・令和元年度の成果や課題、令和2年度の方針について ・令和2年度以降の英会話科について
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回は7月2日に開催し、今年度の黒部国際化教育の全体計画や英会話科年間指導計画、英語サマーキャンプや姉妹都市交流事業にについて協議した。特に、新学習指導要領との関係で今年度からの評価規準や評価方法等の変更点について共通理解を図った。 ・第2回は3月11日に開催し、今年度の英会話科とその関連事業における効果測定や次年度の教科書対応による年間指導計画の改訂、令和2年度以降の英会話科の方針について協議した。効果測定においては、中教研学力調査や英語検定の受験率、取得率、Enjoy talking、Speaking testの結果について作成した資料をもとに実態を把握した。 ・英会話科と関連事業を含めた黒部国際化教育に関する実践が、黒部市の児童生徒に対してどのように有効かという目的についても改めて確認された。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も昨年度に引き続き、年間指導計画を改訂し、新学習指導要領及び小学校高学年の教科書との関連をより一層深めた。 ・令和2年度以降の英会話科やサマーキャンプ等の関連事業のあり方については、具体的な内容や方法について今後も組織的に検討していく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	2－(2) 企画・運営・評価部会										
内容・方策	<p>英会話科の取組が充実するよう、重点目標の共通理解を図るとともに、黒部市における取組状況の共通理解、成果と課題の確認等を行う。(参加者は市内全小中学校の教頭)</p> <p>○年2回開催し、以下のことについて協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英会話科に関するアンケート、英検3級以上取得者調査、中教研学力調査英語科聞き取り調査の結果、「Enjoy talking」と「Speaking test」の集計等について ・令和元年度の英会話科の成果と課題 ・英会話科公開授業における成果と課題 ・令和2年度の英会話科年間指導計画について 										
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の英会話科に関する研修や授業における成果と課題について協議し、今後の研修のあり方や授業実践のための環境整備について、情報交換することができた。 ・令和元年度の年間指導計画における変更点について報告し、実践する上で留意すべき内容について協議した。 ・公開授業のあり方について検討し、中学校における公開日の設定や公開学級のあり方について検討した。 ・黒部市の英会話科を中心とする黒部国際化教育の充実に向けて、今後の公開授業がどのようにあるべきかについてグループ協議を行い、今後の課題を明確にすることができた。 ・中学3年生の英検3級以上の取得率は、昨年度から微増し、4割に近づいた。 <div style="text-align: right;">  </div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">年度</th> <th style="width: 15%;">H28</th> <th style="width: 15%;">H29</th> <th style="width: 15%;">H30</th> <th style="width: 15%;">R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英検3級以上の取得率(%)</td> <td>19.8</td> <td>41.3</td> <td>33.8</td> <td>39.6</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H28	H29	H30	R1	英検3級以上の取得率(%)	19.8	41.3	33.8	39.6
年度	H28	H29	H30	R1							
英検3級以上の取得率(%)	19.8	41.3	33.8	39.6							
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校における英会話科公開授業の来校者数の割合が以下のように改善された。(H24:6% H26:1% H28:3% R01:9%) しかし、小学校来校者数の割合はやや減少した。(H24:30% H26:31% H28:30% R1:25%) (%は全校児童生徒数に対して) ・中学校3年生のCEFR A1レベル以上に到達する生徒の割合が今年度5割を超えた。今後も英検の取得率と見なし数も合わせて確認し、実態を把握して方針を考えていくことが必要である。 										
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。 										

事業・研修会名	2－(3) 英会話科カリキュラム部会
内容・方策	<p>今年度のカリキュラムにおける成果や課題等を集約し、より効果的な指導計画を作成することで、教員の授業力向上と児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>○年3回（7月、8月、12月）開催する。 ○英会話科指導者研修会の事前打ち合わせをする。 ○年間指導計画の見直し及び作成を行う。 ○部員は小中各1名（中学校は英語科教員）及び小学校専科教員とする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・7月26日の部会では、8月に開催する英会話科指導者研修会（カリキュラム部員をリーダーとしたグループ研修）の事前打ち合わせを行った。全員で、研修会当日の全体の流れや研修内容を確認した後、低・中・高学年部会に分かれて、グループ研修の構想を練った。小学校教員と中学校教員が交流し、連携を図ることのできる機会となった。 ・8月27日の部会では、その月に実施された英会話科指導者研修会の成果と課題について共通理解した。また、次年度の年間指導計画の作成に向けて、変更すべき点を低・中・高学年及び中学校部会に分かれて検討した。 ・12月26日の部会では、年間指導計画についての前回の当部会の意見と、それを受けた英会話科担当者定例会での意見をもとに、来年度の年間指導計画の作成に向けた見直しを行った。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・部会で年間指導計画を考えるという内容から他教科の研究員と同様に、英語教育の推進としての役割にシフトしていく必要があるということが昨年度からの申し送り事項であった。今年度は、夏季の英会話科指導者研修会において、カリキュラム部員が研修リーダーとして活躍しており、次年度もその役割や名称について検討する。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	2－(4) 英会話科担当者定例会
内容・方策	<p>月1回定例会を開催し、ALT、英会話講師、市担当者、センター職員が年間計画に基づいて研修を行う。</p> <p>○授業充実のための研修、英語サマーキャンプの企画・運営、年間指導計画の見直し等を中心に行う。</p> <p>○1月下旬から順次ALT、英会話講師との面接を行い、業務の状況を確認したり、悩みの相談にのったりする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいて、毎月1回、定例会を開催した。 ・新学習指導要領の全面実施に向けて、外国語科の導入に向けて知識を深める研修を行った。 ・英会話科の授業やHRTとの打合せ、指導者の役割等についての課題や改善点等をグループに分かれて話し合うことを通してALT、英会話講師の研修を進めた。 ・研修は、ALTグループと英会話講師グループに分かれたり、小学校グループと中学校グループに分かれたりするなど、その月の実情に合わせた。特に、小学校と中学校のグループに分かれたときは、情報交換が活発に行われ、効果的であった。また、グループ協議のあとは、必ず、全体で意見を共有し、共通理解を図った。 ・サマーキャンプや夏休み英語教室の打合せを行った。サマーキャンプでは、ALT、英会話講師が中心となって、児童生徒の活動を進めた。 ・2学期の後半は、8月のカリキュラム部会での意見をもとに、年間指導計画の見直しを行った。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度から小学校第5・6年生では教科書を使用することになり、その内容についての研修を取り入れる必要があった。次年度の定例会では、授業と同時進行ではあるが、具体的な学習内容についての研修を進める必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	2 - (5) 英会話科の推進に関わる研修会
内容・方策	<p>学習指導要領の全面実施に向け、黒部市英会話科の指導の重点事項と留意点及び授業の展開についての共通理解を目指し、研修を行う。</p> <p>○英会話科指導者研修会（8月6日、7日）【参加者122名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒部市英会話科の今後のあり方について学ぶ市内小学校教員による悉皆研修。 ・英会話科カリキュラム部員をリーダーとしたグループごとの実技研修及び授業公開に向けての学習指導案についての検討 ・講師 富山大学大学院 教職実践開発研究科 教授 岡崎 浩幸 先生
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・低・中・高学年部会ごとに会場を設けた。 ・英会話科カリキュラム部員（中学校教員も含む）をリーダーとして、ALT、JAT、JETも加わり、参加者が実践的に学ぶ機会とした。 ・前半は、参加者同士が英語で自己紹介をした後、Classroom English 及び Small talkの音読練習を行った。 ・後半は、小グループに分かれて、授業公開に向けての学習指導 略案を作成した。 ・講師の岡崎先生には、適宜、アドバイスをいただいた。 ・参加者の感想には「Classroom Englishや会話の練習がよかった」や「小中合同の研修は意味がある」等の効果が認められる感想が寄せられた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話科カリキュラム部員の共通理解が不足したため、研修会では部会ごとの取組に差が生じた。カリキュラム部員が研修内容やその進め方について具体的に打ち合わせをするための事前研修会の場を設定する。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は希望研修とし、魚津地区教育センター協議会の協業事業として実施する。今年度に引き続き、英会話科カリキュラム部員をリーダーとした実技研修の形で行う。

事業・研修会名	2－(6) 英会話科授業の充実及び環境整備
内容・方策	<p>英会話科の取組の充実を目的として、各校の取組を広く紹介したり、学習効果の上がる教材を作成したりするなど、英会話科の充実と環境整備にあたる。</p> <p>①ふるさと黒部のことを英語で豊かに語ることでできる生徒を育成するための“<i>This is Kurobe</i>”を作成し、中学校2年生に配布する。</p> <p>②黒部国際化教育に対する保護者の理解を深めることを目的に保護者用リーフレットを配布する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、黒部市の名所や特産品等を広く外国人に紹介することを目的として、市内4中学校の2年生によって、“<i>This is Kurobe</i>”の改訂を行った。昨年度に引き続いて掲載したクイズを5W1Hの問答にして答えを豊かに表現できるように工夫したり、統合前に4中学校の内容を増やしたりしたことで、内容が充実した。 ・10月28日から11月28日を英会話科授業公開月間として、全小・中学校で授業を公開した。そのときの児童生徒や保護者のアンケート結果を活用し、黒部国際化教育に関するリーフレットを作成し、保護者に配布した。 ・英会話科の取組についての成果と課題を確認し、冊子「英会話科のまとめ」を作成した。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・“<i>This is Kurobe</i>”は、中学校第2学年で作成し、第3学年において主要な教材として活用することになっているが、効果的な指導として生かされていない。年間指導計画に活用の時期を位置づけたり、活用例を示したりして、活用に向けた取組を工夫する。 ・“<i>This is Kurobe</i>”以外の教材を作成することができなかった。英会話科カリキュラム部会や担当者定例会でどのような教材があるとよいか意見を聞きながら、教材開発に努める。 ・冊子「英会話科のまとめ」の作成に時間がかかった。データを集める時期、分析する時期等、見通しをもって計画的に進めなければいけない。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、学習内容に応じた教材や“<i>This is Kurobe</i>”の作成については令和2年度も継続する。

事業・研修会名	2－(7) 帰国児童生徒教育研究会
内容・方策	<p>帰国児童生徒及び外国人児童生徒が、日本の学校生活、生活様式に適応できるように支援する。(黒部市とYKKからの補助金と各校からの会費等により研究活動を進める)</p> <p>① 保護者会やサマースクールの開催、会報Accessの発行を行う。</p> <p>② 国際理解教育の充実を図るため、県外研修報告や全体研修会を行う。</p> <p>③ 各校および関係機関・保護者との連携を密にし、帰国児童生徒への援助・相談を充実させる。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回保護者会(6/29 中央小学校)では、日本での子育てや言語の習得について話し合った。保護者6名(帰国3名、外国籍3名)が参加。 ・第2回保護者会(12/2 中央小学校)では、外国籍保護者を指導者として調理を行い、会食した。その後、懇談を行い、日本での子育てや母語の保持とアイデンティティについて話し合った。 <p>保護者8名(帰国2名、外国籍6名)、児童5名、幼児4名が参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サマースクール(8/2 セレネ美術館、吉田科学館)では、保護者4名(帰国3名、外国籍1名)、児童6名、幼児2名が参加。セレネ美術館での紋切り遊びの体験や室内レクリエーションを通して交流を深めた。 <p>②の研修会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外研修報告 黒部市立高志野中学校 道用 裕志 教諭 ・全体研修会 「今日的な問題への対応を考える」 黒部市立中央小学校 校長 戸島 宏之 先生 ・国際理解教育研修会 「これからの児童に求められる力 ～外国語活動全面実施に向けて～」 富山大学大学院教職実践開発研究科長 岡崎 浩幸 先生 <p>③の援助・相談について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会報Accessや教育センターのホームページ、YKK教育相談室だよりで、一時帰国等の家庭にも広く情報を発信している。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・サマースクールの活動内容や場所を天候に応じて室内にするなど、体調管理に配慮して実践する。 ・研修会では、参加者の学校に外国籍の子供が在籍しているかどうかで意識の違いがあった。参加者全員が共有できる研修内容を検討したい。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。



事業・研修会名	2－(8) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育
内容・方策	<p>帰国・外国人児童生徒がスムーズに学校生活を送ることができるように、学校・市教委と連携して指導にあたる。</p> <p>○ 帰国児童生徒に対しては、一人一人に応じた学習指導を行い、外国人児童生徒に対しては、日本語指導を中心に行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・中央小学校では、数名の外国人児童について、週2回の付添指導をしている。帰国・外国人児童が学習内容や先生の指示等を理解していないと思われる場合に、分かりやすい言葉で説明したり、学校生活でのルールを説明したり、級友と仲良く関われるように声を掛けたりしている。 ・中央小学校の3年生外国人児童1名について日本語を指導してほしいとの要請があり、週2日1時間ずつ個別指導をしている。教室での一斉指導の内容をより理解させるために、担任と連携をとりながら、漢字の読み書きや文章の書き方を指導をしている。 ・生地小学校、たかせ小学校、中央小学校、荻生小学校、宇奈月小学校に外国の文化や生活についての掲示を行い、国際理解のきっかけづくりになるよう努めている。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任と連携をはかり、個々の児童に応じた指導を継続する。 ・外国人保護者が生活に不安を抱えている場合、児童生徒にも影響が及ぶことがあるので、校内の支援会議等の情報を共有し、適切に対応していく。 ・個別指導や付き添い指導をしている外国人児童のよさを生かしながら学習ができるように、学習や学校生活の様子を担当やスタディメイトと共有していく。 ・帰国・外国人児童生徒が編入してきた場合、効果的な対応ができるように、これまでの個別指導において効果のあった対応を累積し整理しておく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善をふまえ、令和2年度も継続していく。

3 生徒指導・教育相談の充実

事業・研修会名	3-(1) いじめ問題等研修会
内容・方策	<p>いじめ問題について、「黒部市いじめ防止基本方針」に即し、組織的な対応ができるよう研修を深める。</p> <p>○「いじめ問題等研修会」を年2回実施。(4月16日、2月6日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校教頭を対象に、いじめの未然防止や対応について研修を深める。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○第1回研修会(4月16日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒部市におけるいじめの認知件数の推移について確認するとともに、いじめに関する通知文における「いじめ認知件数が0であった場合」の対応について共通理解を図った。 ・黒部市や全国でみられた事例をインシデントにまとめ、学校としての対応のあり方や重大事態としての扱いに関する共通理解を図った。 ・いじめにつながるネットトラブルを防止するために、昨年度ルール作りに取り組んだ学校の例をもとに、各学校でどのようにネット利用をコントロールする力を身に付けさせていくかについて協議した。 <p>○第2回研修会(2月6日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめにつながる発達障害による特性や教師の対応に関するインシデントをもとに、学校が組織としてどのように対応できるかについて協議した。 ・講師による指導助言により、生徒指導主事や教頭の役割について再認識するとともに、いじめの認知件数の捉え方について共通理解することができた。 <p>講師 東部教育事務所 主任生活指導主事 白井 修之 先生</p> 
課題・改善	<p>黒部市の事例をインシデントとして紹介することにより、具体的な協議につながった。</p> <p>生徒指導主事や教頭の意見からは、いじめに特化することなく、不登校等も含めた学校不応問題に関する新たな知見得たり協議したりすることも求められており、幅広く対応していくことが必要である。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度から不登校等の不応問題を含めて、いじめ問題等研修会として継続する。

事業・研修会名	3－(2) 生徒指導主事等研修会
内容・方策	<p>生徒指導主事等の資質・能力の向上を目的とし、日常的に起こり得る課題への対応について、年4回研修会を開催する。小中連携の意識を高め、児童生徒を9年間で育てるという視点から、演習は中学校区ごとのグループで行う。</p> <p>第1回 5月15日「いじめ、不登校、メディア利用ルールづくりに係る校内研修のための演習」 第2回 6月21日「i-checkを生かした児童生徒理解」 第3回 11月13日「令和2年度からの生徒指導の理論と実践」 第4回 2月6日「黒部市内の学校不適應問題を軽減するために」 講師 東部教育事務所 主任生活指導主事 白井修之 先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の生徒指導主事等が各校の生徒指導上の問題解決においてリーダーシップを発揮できるように、事例を基に具体的な解決に向けて協議する演習を行った。また、学校の実情に応じた、生徒指導主事等による校内研修へとつなげるために、短い時間で効果的な演習となるよう内容を工夫した。 ・参加者の感想には、「ちょうど校内で取り組んでいることに近い内容でよかった。職員でのミニ研修を考えていたところなので、とても参考になった。」や「事例をもとにした研修だったので、自分ならどうするかを考えることができ、大変有意義であった。」等があった。 ・毎回、中学校区ごとの情報交換会を行い、現在の学校の様子や気になる児童生徒の状況を共通理解できるようにした。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の「こんな研修を受けたい」という思いに応えられるような研修内容にするために、生徒指導においてどんなことがタイムリーな話題なのか、実状の把握に努める。 ・生徒指導主事等の資質・能力向上を目的としている研修会であるが、希望する教員も参加できるようにするなど、多くの教員が学ぶことができる機会となるよう検討する必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	3－(3) 教育相談の充実と体制づくり																																
内容・方策	<p>適応指導教室「ほっとスペース」と教育センターにおいて、来所、電話等による教育相談を実施し、保護者、児童生徒、教員の悩みや課題の解決に向けて支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの教育相談の案内を学校を通じて、年4回配布する。 ・保護者からの教育相談を受け、相談内容によっては学校に連絡したり、学校と協議したりして、保護者や子供の支援にあたる。 ・市教委・市教セによる学校訪問、通常訪問、支援型訪問において、懇談会等で教員の相談にあたる。また、必要に応じて各学校に出向き、相談にのったり、要望に応えたりする。 																																
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>・相談件数と主な内容（令和2年2月末現在）</p> <table border="1" data-bbox="464 853 1393 1084"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">保護者</th> <th rowspan="2">学校</th> <th rowspan="2">合計</th> <th colspan="5">内 訳</th> </tr> <tr> <th>不登校</th> <th>人間関係</th> <th>子育て</th> <th>進路</th> <th>他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適応指導教室</td> <td>80</td> <td>44</td> <td>124</td> <td>71</td> <td>19</td> <td>29</td> <td>14</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>教育センター</td> <td>18</td> <td>11</td> <td>29</td> <td>15</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> <p>※来所による相談、電話やメールによる相談を含む。内訳は複数回答。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校、生命の危険につながる緊急性のある相談内容については、相談者の了解のもと迅速な連携を心がけた。 ・保護者からの子育てだけでなく、地域に関する幅広い相談に対しても丁寧な対応を心がけた。 ・学校からの要望により、保護者との定期的な面談や児童生徒との面談を行った。また、ケース会議等に参加し、対応のあり方について検討した。 ・適応指導教室指導員等やSSWとの連携を密にし、効果的な支援につなげた。 ・保護者からの相談電話では、教育相談の案内を見て連絡される方がほとんどであり、案内配布には一定の効果があったと考えられる。 ・相談者との良好な関係性のもと、教育センターでの面談が複数回行われた。 		保護者	学校	合計	内 訳					不登校	人間関係	子育て	進路	他	適応指導教室	80	44	124	71	19	29	14	0	教育センター	18	11	29	15	5	3	11	11
	保護者					学校	合計	内 訳																									
		不登校	人間関係	子育て	進路			他																									
適応指導教室	80	44	124	71	19	29	14	0																									
教育センター	18	11	29	15	5	3	11	11																									
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターの所員や適応指導教室の指導員の面談技術や心理療法的な知見を高めていく必要がある。また、相談内容によっては県教委や関係機関と連携して取り組むことが必要である。 																																
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。 																																

事業・研修会名	3－(4) 不登校児童生徒に関わる取組、適応指導教室の充実
内容・方策	<p>適応指導教室「ほっとスペース」において、通所している小・中学校の不登校児童生徒やその保護者に対して、学校と連携を図りながら様々な指導、支援を行い、児童生徒の集団生活や学校生活、社会生活への適応に対する支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所している児童生徒の実態に即し、成長に役立つ活動を実施する。 ・相談活動により保護者の児童生徒理解を深め、保護者自身の心や家庭生活の安定を図る。 ・関係小・中学校及び市教委、関係機関と連携しながら児童生徒の支援を行う。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度通所した生徒 7名（小学生2名、中学生5名） ※4月は5名通所で開始。1・2月に1名ずつ増え、7名となった。昨年度は別室で過ごしていた生徒が今年度から他の通所児童生徒と一緒に過ごすなど、集団生活への適応がみられた。発達障害により行動に特性がみられる児童への対応が困難であり、所員の配置について変更を要した。 ・毎月、各学校の欠席の多い児童生徒数を取りまとめ、黒部市全体の結果を市教委や校長研修会で報告した。 ・通所している児童生徒一人一人の状況に合わせ、個別の計画を立てて指導にあたった。市教セから適応指導教室に適宜訪問し、児童生徒の様子を観察するとともに、児童生徒への支援や保護者への対応について、適応指導教室指導員等と打合せをした。また、学校には、月ごとに児童生徒の活動報告を届けた。 ・適応指導教室において、にいかわ総合支援学校の担当者によるアセスメントや総合教育センターからのアウトリーチ型の支援を行った。 ・月に1回程度、保護者と指導員等、保護者同士が懇談する場（おしゃべりカフェ）を設けている。今年度より8月実施場所を市の施設内で位置付けた。2月現在の参加者は、延べ53名。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の活動にはなじみず、活動意欲が低迷している児童が、通所時に活発に取り組む様子が見られた。また、少人数の中で他に配慮できる行動がみられるようになるなど、一定の成長が確認できた。 ・発達障害の児童生徒の通所や保護者からの相談が増えており、本人の特性や障害等に応じた支援のあり方や保護者向けのメンタルヘルスに対する職員研修が必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	3-(5) スクールソーシャルワーカー（SSW）事業の活用推進
内容・方策	<p>不登校や児童虐待等の学校・家庭が抱える課題に対応するため、SSWを派遣し、問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけや関係機関との連携・調整等を図る。</p> <p>①各中学校及び教育センター所属のSSWが学校の要請に応じて、家庭訪問したり電話連絡したりして、問題を抱える児童生徒やその保護者との面談を行う。</p> <p>②関係機関等とのネットワークを活用し、学校では発見しにくい家庭内の問題や子供の問題等について協議し、支援内容を学校に連絡したり、学校で一緒に協議したりする。</p> <p>③SSWが小中学校・幼稚園等を訪問し、SSWについての説明や活用促進の呼びかけを行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度からSSWが中学校所属と教育センター所属になり、半日ずつ校区小中学校で勤務している。 <li style="padding-left: 20px;">＜SSW 1＞ 木曜日の午前鷹施中と石田小、たかせ小を巡回勤務。午後から高志野中、生地小、村椿小、中央小を巡回勤務。 <li style="padding-left: 20px;">＜SSW 2＞ 毎週水曜日の午前宇奈月中、宇奈月小を巡回勤務。午後、桜井中、荻生小、若栗小、桜井小を巡回勤務。 ・活動記録（2月末現在、2名の合計） <ul style="list-style-type: none"> ・2月末までの勤務 528時間（県491h、市37h） ・働きかけをした対象者 児童生徒42名、保護者7名 ・家庭訪問（延べ回数） 17回 ・ケース会議（延べ回数） 2回 ・小学校も中学校と同様に定期的に巡回し、児童とSSWが直接会う機会を増やすことで、相談を受けやすい環境を整えた。 ・家庭訪問や学校での面談が仕事上困難な家庭に対しては、保護者の要望に応じて職場近辺での面談を行うなど、柔軟に対応した。 ・社会福祉協議会主管の「くろベネット」によるケース会議にも参加し、支援体制を広げるためのネットワークづくりを行った。 ・小中学校や幼稚園・こども園・保育所への訪問、就学時健診での保護者への広報活動等を通して、学校や保護者にSSWの役割について広く知らせることができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町での勤務の兼ね合いから、活動できる時間に限度があり、学校からの要請に対応できない場合がある。今後も配置における柔軟な調整が必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	3－(6) 幼・保・こ・小・中学校の連携事業
内容・方策	<p>子供たちが健全に成長できるよう、幼稚園・保育所・こども園と小学校、小学校と中学校での情報共有や連携を深めるための方策を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校（園）訪問において、幼稚園、こども園、小・中学校の連携の視点をもって指導助言にあたる。 ・中学校区ごとに生徒指導や教科指導に関する共通した方針を立てて実践していくことができるように、各種研修会での情報交換の在り方を工夫する。 ・小中連携に役立つ資料を提供する。
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会における演習や協議会においては、中学校教員と小学校教員を中学校区毎に一緒にしてグループ編成するなど、情報交換や指導方針の共有が促進するように配慮した。 ・幼稚園、こども園での訪問研修に際しては、小学校への進学や特別支援の状況に関する情報共有ができるように報告を受けた。また、小学校での訪問研修に際しては、中学校への進学を念頭に置いた助言を行った。 ・いじめや不登校に対する方策や英語に対するアンケート、全国学力学習状況調査に基づく方針やi-checkなど、小・中学校が共通して確認できる指標を整備し、変容を確認したり、それぞれの結果を参考にしながら方策が立てられるようにした。 ・理科研究委員会や英会話科カリキュラム委員会等においては、小・中の教員が一緒に活動できるように配慮した。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・保・こ・小の連携について、具体的な取組を展開することが困難である。今後は、相互の状況を確認し、情報を収集しつつ、研修の場を設けることが大切である。 ・幼・保・こ・小・中学校の連携に関して、相互の接続段階におけるニーズを把握し、有効な対応策を検討していくことが重要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

4 学校教育を支援する調査・研究の推進

事業・研修会名	4-(1) 社会科研究委員会
内容・方策	<p>小学3年・4年の社会科で学ぶ身近な地域や市(県)の社会的事象について理解を深め、地域社会に対する誇りと愛情を育てるための学習資料を作成する。(社会科研究委員 小学校教諭9名)</p> <p>○学習資料「わたしたちの黒部市(第3学年)・(第4学年)」について、新学習指導要領と採択教科書に準拠した改訂作業を行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○委員会は4回の開催(7/26、8/26、11/28、2/5。4回目は正・副委員長と担当者。全員開催は昨年より1回増。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回に新要領に準拠した改訂資料を提示し、作業分担をした。第2・3回では原稿の検討を重ね、新教科書と照合しながら審議した。最終提出された原稿を担当者が編集し、正・副委員長が確認して担当者が仕上げるという流れで進めた。 ・新要領と採択教科書に合うように開発したのは8頁、学年間の移動が8頁、削除は6頁と大改訂となった。3年「わたしたちのまち みんなのまち」では、教科書の視点の変更に合わせて作り直した。また、「安全なまちづくり」の写真を安全と防災に分け、防災策は昨年度開発した4年の新単元「自然災害からくらしを守る」に移し、子供の身近にある安全策を増やした。その頁と新しく開発した「市に古くからのこるたて物」の2頁を3年用では初のカラー印刷とした。 ・地図や資料は正確かつ最新にした。また、ウォー太郎の登場を増やし、ねらいに合わせて内容も見直した。 ・見やすく読み間違えにくいと言われるUDフォントを採用した。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・委員が交代しても地図やグラフ資料等を修正できるよう、その方法やデータの保存について周知する。 ・県教育会発行の「きょう土のすがた」と重複する資料について見直していく。 ・新要領全面実施に向け、昨年度からの移行措置や新教科書の内容も踏まえた改訂を進めてきた。委員の意見を生かしつつ、児童にとってより有意義で分かりやすい資料となるように内容を吟味していく。また、さらなるカラー印刷化を検討していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	4－(2) 理科研究委員会
内容・方策	<p>小学校における理科の学習活動を充実させ、児童の理科の見方・考え方の育成に資するため、観察、実験に活用できる資料やワークシート等を作成したり、指導力向上を目指す実技研修を行った。 (理科研究委員 小学校7名、中学校2名)</p> <p>○ 研究委員が講師補助となり、小中学校理科担当教員の「安全な化学実験のあり方とプログラミング学習体験」について教科(理科)実技研修会を開催する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">AA</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○理科研究委員会は年間3回(6/18、7/25、8/2)の開催。3回目の午後に教科実技研修会を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回：活動計画立案。昨年度の課題「『理科の観察、実験で困っていること』」について、実技研修を通して力量を高めたい」に対応するため、実技研修会で行う内容3項目を決めた。市教セ主催の教科実技研修会(講師：市教セの内生蔵所長)とタイアップして行うことになり、委員の役割と流れを検討した。 ・第2回：教科実技研修会と同会場で内容と進め方を検討。事前学習や予備実験を行い、よりよい器具や場の設定等を確認した。特に研修3「理科におけるプログラミング教育」について、新学習指導要領の内容や数社の新教科書での扱い方を学び、場面設定等を確認した。教科書で扱われているプログラミング用の器材やタブレット(スマホ)を実際に用いて、LEDを点灯させるなどのプログラミング体験をした。 ・第3回：午前中に実技研の予備実験と準備。14時より実技研に25名参加。各班に委員が入り、実験や体験をリードした。 ・委員は予備実験や体験を行っていたが、実技研で班の講師を務めたことで新たな発見が多くあり、指導力向上にもつながった。中学校籍の委員も小学校のプログラミングを初めて体験し、生徒の学びの履歴を知るよい機会となった。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員には次年度から導入のプログラミング学習の悩みや不安がまだまだ多いと思われる。他の研修会とのタイアップを含め、力量を高める機会を設ける。 ・2年前に作成した実験準備カード集を新教科書に準拠するよう改訂する。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	4－(3) 吉田科学館学習（プラネタリウム学習）									
内容・方策	<p>授業で観察することができない夜空や太陽系惑星、恒星など天体の見かけの動きをプラネタリウムで見ることにより、宇宙や天体への興味・関心を高め、理解を深める。</p> <p>○ 学校、吉田科学館、教育委員会（スクールバス運行）と連絡調整をし、小学4年生・中学3年生のプラネタリウム学習が円滑に行われるよう計画、反省などを行う。</p>									
点検・評価	<p style="text-align: center;">AA</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・参加校 6月～9月 小学校4年生 9校（365人） 12月～1月 中学校3年生 4校（369人） ・事前研修会参加人数 小学校7名 中学校2名 センター1名 <p style="padding-left: 2em;">*事前研修会は、今年度より小学校も希望参加とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会には、学校や児童生徒の状況に合わせたスクールバスの配車に配慮していただいた。 ・マニュアル投映の効果 <table border="1" style="margin-left: 2em; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 35%;">小学校</th> <th style="width: 35%;">中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大変参考になった</td> <td>9校（100%）</td> <td>3校（75%）</td> </tr> <tr> <td>参考になった</td> <td>0校</td> <td>1校（25%）</td> </tr> </tbody> </table> <p>＜その理由＞</p> <p>小学校：実際には観察しにくい太陽、月や星の一日の動きを時間の経過と結び付けて連続して見ることで、教科書だけでは分からない星の動きを具体的にイメージすることができる。学習内容のキーワードを大切にしたり分かりやすい説明が、児童の理解につながっている。</p> <p>中学校：板書や動画だけでは理解しにくい太陽の動きや星の動き等の部分が、プラネタリウムで確認することで分かりやすくなり、生徒にも好評である。事前に要望した月の満ち欠けや金星の複雑な動きについての詳細な説明により、理解が深まった。</p>		小学校	中学校	大変参考になった	9校（100%）	3校（75%）	参考になった	0校	1校（25%）
	小学校	中学校								
大変参考になった	9校（100%）	3校（75%）								
参考になった	0校	1校（25%）								
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、プラネタリウム視聴の途中で立ち止まって教科書を確認したり視聴後に質問タイムを設けたりしたいとの要望が、事後に寄せられる。それは事前の打ち合わせにより可能なことなので、学校の指導者への自覚を促していく。 ・昨年度の反省を生かし、今年度から小学校の事前研修会も希望参加とした。児童生徒にとって充実した学習になるように、学校の要望を踏まえつつ内容や日程については科学館と、スクールバスの運行については教育委員会と連絡調整をしていく。 									
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。 									

5 迅速な教育サービスの提供

事業・研修会名	5－(1) 情報提供
内容・方策	<p>児童生徒、教職員が、安心・安全によりよい学校生活を送ることができるよう、必要な情報を迅速に提供し、情報の共有化を図る。</p> <p>①不審者情報や熊情報が出た場合、市教委と相談のうえ、迅速に学校や公民館等に連絡する。長期休業中の危険・問題行動については、連絡ルートに従って小中学校に連絡する。 (熊情報については市教委から連絡する)</p> <p>②報告書や資料の作成については、市教委や各部長（担当校長）と連携しながら取り組む。</p> <p>③教育センターだよりを発行し、市内の教員や学校の取組の紹介、市内の教育の動向や教育センターの事業等を紹介する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者・熊情報については、市教委や隣接市町教育センターと連携し、内容について相談しながら、確実に対応することができた。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書や資料の作成、教育センターからの提案については、市教委や校長会、小教研、中教研等の関係機関に相談しながら進めた。市教委や校長会、関係機関からは、様々な助言をいただき、それらに基づいて報告書や提案を改善した。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育センターだよりやHP等を通して、教育センターでの研修をはじめとして、各校での特色ある取組や学力向上拠点校での取組、黒部国際化教育の動き、新規採用教員の紹介や市内教員の教育への思い等、幅広く紹介することができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報については、迅速な対応が要求されるが、保護者や警察への報告等について当該校と確認し、間違いのない情報提供が大切である。 ・近隣市町からの情報だけでなく、東部教育事務所からの情報に対しても確実な対応を心がける必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。

事業・研修会名	5－(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷
内容・方策	<p>書籍、教材等を貸し出したり、印刷物を作成したりすることを通して、学校行事の運営や教育指導、教員研修の質的向上を支援する。</p> <p>①視聴覚教材、書籍等を購入・整備し、広報活動に努める。 ②大型プリンターによる印刷物の作成を迅速に行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教材の貸し出しは、以下の通りである。 ※3月10日現在の数値。()内は前年との比較。 ◇視聴覚教材 18件(－15) ◇プロジェクター等の教具 0件(－5) ◇WISC-IV等の検査類 4件(－5) ◇教科書 114冊(+11) ◇書籍 14冊(－1) <ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材(DVD)については、学校への巡回貸し出しを行ったり、市教セでの研修会の際に受講者へ紹介したりして、情報活用の周知に努めた。 ・書籍については、研修室に並べたり、教育センターだよりで紹介したりした。研修会の休憩時間に書籍を確認し、関心をもって借りていく教員がいた。 ・大型プリンターによる印刷については、依頼を受けてから印刷して渡すまでの一連の流れを職員が連携することで、依頼があった翌日には各校へ届けるように努めた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材や書籍を多くの先生方に利用してもらえるよう、学校が必要とする教材や資料等について最新の教育課題をもとに調査を進め、整備を行うとともに、さらなる広報活動の工夫が必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和2年度も継続する。